

1 学校教育目標 ふるさと松梅を担う心身共に調和に取れたこどもの育成 スローガン「小さな学校 大きな未来」	2 本年度の重点目標 ① 地域とともにある学校づくり ② 確かな学力の育成と小中一貫教育の充実 ③ 心の教育、健康・安全教育の推進と特別支援教育の充実
--	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む。

3 目標・評価						
① 地域とともにある学校づくり						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○地域とともにある学校づくり	家庭・地域への情報発信を行い、説明責任をはたすことができたか コミュニティ・スクール(CS)の充実を図ることができたか	・学校教育の情報家庭・地域に発信し、保護者へは90%、地域へは60%の周知をめざす。 ・保護者・CSメンバーへの80パーセントの周知をめざす。 ・CSメンバーを中心に、例年の行事等を見直し、建設的な企画・運営をめざす。	・学校HPをリアルタイムで定期的な更新を行う。 ・学校便りを地区の掲示板や回覧等、保護者以外にも広報を行う。 ・会議を年6回開催し、コミュニティ・スクールを実践する。 ・CS通信を会議後発行する。 ・土曜授業などを活用した、CS主催又は育友会等との共催行事を行う。	地域連携	教頭 野田
② 確かな学力の育成と小中一貫教育の充実						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●学力向上	基礎学力を定着させるための取り組みや指導法の工夫ができたか	・基礎学力の確実な定着をはかり、県学習状況調査で県平均を10ポイント以上上回る。 ・校内研修を充実し、授業研究会等を、年間一人1回は必ず実施するよう努める。 ・教師の指導力を高める研修講座や研究会へ全員1回は参加する。	・学習状況調査結果の分析を行い、生徒の実態に応じた指導を行う。 ・長期休業中の補充学習を実施する。 ・放課後等を利用し、個別指導の充実をはかる。 ・全員参加の授業研究会の実施など校内研修の充実を図る。 ・研修講座や研究発表会への積極的な参加を推奨する。 ・電子黒板やタブレットなどのICTを活用した授業を年間通して行い、機器の効果的な活用に向け工夫する。	学力向上	野田 水頭
	○小中一貫教育	9年間を見通した小中一貫による学力向上及び体験活動の充実ができたか。	・小中合同校内研究会を毎月1回以上の開催し、横断的カリキュラムの構築や縦断的カリキュラムの工夫を行う。 ・小中乗り入れ授業及び交流授業を充実させる。 ・児童・生徒が主体となって企画・運営する行事を充実させ、体験活動満足度を90%以上にする。	・小中合同の授業研究会を行う。 ・全員、1回は研究授業を行う。また代表者による授業研究会を実施する。 ・小中合同の職員会議・校内研究会・生徒指導協議会・校内支援協議会の開催する。 ・小中合同の委員会活動を精選・重点化をはかる。 ・児童・生徒が主体となって企画・運営する実行委員会を組織し、自主的な活動を充実させる。	教務部 特別活動	吉田 野田
③ 心の教育、健康・安全教育の推進と特別支援教育の充実						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●志を高める教育	夢や目標に向かって、努力しようとする気持ちの育成ができたか。	・各学期で個人目標を立てて計画的に取り組む態度を育成する。 ・総合的な学習の時間で体験学習を行う。 ・1,2年生は「先輩に学ぶ」を行い、2,3年生は、高校進学説明会を行い、2年生は職場体験学習を行う。各学年、進路実現に向けての意識が80%を上回る。	・進路学習を通して進路に関するさまざまな情報を得、さまざまな体験活動を通して自己の進路実現のための学習を実践する。 ・職場体験(2年生)を実施して、勤務観・職業観を育み、将来の進路選択の見通しを立てる。 ・総合的な学習の時間等で、外部講師を招聘しながら、いろいろな職業やそこで必要な能力、適性について企業体験活動を通して学ぶ。 ・「先輩に学ぶ」(1,2年生対象)を実施し、高校生活の実態や魅力について知り、自分の進路決定の参考となるようにする。	キャリア教育	水頭 古賀
	●心の教育	道徳教育や体験活動を充実し、豊かな心の育成ができたか。 人権・同和教育の推進はできたか。	・豊かな体験活動を通じた道徳の授業の充実を行う。 ・道徳的心情を育む授業の工夫する。 ・あいさつのあふれる学校環境をつくる。 ・特別支援学校等との交流学習を実施する。	・地域人材を活用した道徳の授業を計画的に行う。 ・ふれあい道徳授業(授業参観)を実施する。 ・生徒会によるあいさつ運動の工夫改善を行う。 ・大和特別支援学校やろう学校、シオンの園との交流学習を行う。	道徳教育 生徒指導部	持永 南里西
	●いじめ問題への対応	生徒が安心して生活できる学年・学級経営ができたか。	・「いじめ・命を考える日」の取り組みを毎月行い、内容を充実させる。 ・安心して生活できる学年・学級だと感じる生徒を95パーセント以上になるようにする。	・「いじめ・いのちを考える日」は、生徒に人権・同和教育に関する講話を行う。 ・グループエンカウンターの実践を積極的に行い、級友の良い所を見つけて、学級活動の充実を図る。	人権・同和教育	古賀 教頭
	●健康・体づくり	健康教育や安全教育(危機管理)の推進はできたか。	・毎月「いじめ・いのちを考える日」の取り組みを充実させる。 ・本校の学校いじめ対策基本方針を充実させ、対応の迅速化を行う。 ・支持的風土づくりを大切に、生徒の居場所のある学校づくりをめざす。	・生活アンケートを毎月行い、いじめや悩み等、生徒の問題の早期発見に努める。 ・いじめに対する教員の対応マニュアルを作成することで、未然防止、早期発見、早期対応ができる体制を作る。 ・少人数の学校という利点を生かし、生徒一人一人の活躍の場を多く与え、承認する。	生徒指導部	古賀 南里西
	○特別支援教育の充実	特別支援教育の体制を確立することはできたか。	・支援が必要な生徒全員に、個別的教育支援計画を作成する。 ・支援が必要な生徒全員に個別の指導計画を作成する。 ・特別支援教育の研修会を年間3回実施する。 ・小・中合同の研修会を実施し、情報を共有する。	・入学説明会等機会あるごとに、部活動の意義について生徒や保護者に説明し、加入を促す。 ・体育の授業の準備運動に4分間程のランニングや腕立て伏せや上体起こし等の補強運動を取り入れ、体力の向上を図る。 ・昼食後の歯みがきと手洗いを促す。 ・危機管理マニュアル、学校安全計画に基づく研修を実施する。	保健安全	荒木 吉田
	●特別支援教育の充実					
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	新しい人事評価制度のもと、効果的で効率的な働き方をすすめることができたか。	・新しい人事評価制度を職員に周知させ、効果的な活用を行う。 ・業務記録表をもとに、勤務時間の適正化を推進する。 ・職員のコンプライアンスを高め、服務規律を遵守させる。	・人事評価制度の具体的内容の周知を図る。 ・効率的に学校行事の精選や校務分掌の見直しを図る。 ・部活動に係る指導方針を改め、超過勤務を削減する。 ・服務規律の徹底遵守を啓発するため、各種研修会を行う。	総括	校長 教頭